

# 小野田赤十字病院長による 地域公民館での講演録

(第5回 年内連載予定)



平成31年2月14日(木) 10:00~11:30 本山公民館 (健康講座 第4弾)

## 演題：「市町が実施するがん検診について」

清水 良一

**はじめに：**前年の平成30年5月17日(木)に本山公民館主催の健康講座で「健診について」とのタイトルでの講演を実施し、その要旨は3か月前に発刊した本広報誌(ORC)令和元年6月号に掲載したところである。当時の講演では、「健康増進法に基づいた健診(検診)項目」の一覧表を参考資料として机上配布し、主に、いわゆる一般の健診(「特定健康診査」、および75歳以上を対象とした「健康診査」)について解説した。

講演の最後に、がん検診にも少し触れ、増加傾向の続いている「乳がん」と「大腸がん」を取り上げて解説したことは6月号のORCに掲載した通りである。

国が勧める「がん検診」には前述の乳がん、大腸がんの他に、肺がん、胃がん、前立腺がん、および子宮がんに対する検診があり、当時の本山公民館・館長、高畑義行氏から本山地区の市民の皆さんから、残る4つのがん検診についても詳細な解説の希望が寄せられている旨の連絡を受け、急遽「市町が実施するがん検診について」とのタイトルで、平成31年2月14日に健康講座、第4弾としての講演を行うこととなった。

**講演要旨：**早期発見の検査法が確立され、進行がんも含めた5年生存率が60%を超えている治りやすい5つのがん種(前立腺がん・乳がん・子宮がん・大腸がん・胃がん)に加えて、5年生存率が30%程度と低く、がんによる死亡者数の男性第1位、女性第2位、男女を併せた総合でも第1位を占めている肺がんにも焦点を当て、これら6つのがん種について、早期発見が多く国民の健康増進に繋がるとの観点から、国を挙げてがん検診の受診率を増やす努力が行われている(ちなみに、山口県のがん検診受診率は全国で最低ランクに位置する)。

### 【肺がん検診について】

肺がんの画像診断の中心は高分解能CT検査であり、この検査を一般のがん検診に組み込むことはコストおよび時間の制約があり、現時点では市町の行うがん検診では実施されていない。現状は胸部のレントゲン検査(必要に応じて喀痰細胞診)が肺がん検診として実施されており、心臓や横隔膜などの固有の臓器と重ならない位置にある肺がんが見つかる。よって、必ずしも検診受診者すべての肺がんの早期発見に繋がるとは言えない。但し、一般的な健康診断を受ける際に、同時に肺がん検診の受診も希望する旨を申し出ると、国民健康保険加入者の場合は無料で胸部レントゲン撮影も実施してもらえるので、予約時に肺がん検診も併せて受ける旨を申し出ることをお勧めする。なお、喫煙歴があったり、身内に肺がんの既往のある方がおられるときは、市町のがん検診にこだわることなく、積極的に定期的なCT検査による肺がん検診を受けていただきたい。ちなみに、小野田赤十字病院ではCTでの肺がん検診に15,000円の費用がかかる。

### 【胃がん検診について】

バリウムの飲用によるレントゲンでの胃透視検査、または胃カメラ（上部消化管内視鏡検査）により、胃がんおよび食道がん等も同時に検査するもので、市町の行うがん検診の中では侵襲のある検査である。なぜなら、バリウムを飲むことはバリウムが排泄される過程で大腸の憩室炎を引き起こす可能性があり、胃カメラでは消化管穿孔や出血などの合併症がゼロではないからである。

当日の講演では、胃がんそのものを捉える検査ではないものの、胃がんの主原因である「ピロリ菌の感染とその結果引き起こされる胃粘膜の萎縮（老化）」の程度を血液検査で判定する「ABC 検診」を紹介した。これは採血のみの検査で済み、具体的には血液中の「ヘリコバクターピロリ抗体」と「ペプシノゲン」を測定して、前述の病態を把握することになる。その結果に基づいて胃カメラによる精密検査が必要か否かを判定できる簡易で優れた検査である。市町のがん検診にはこの「ABC 検診」は含まれていないが、小野田赤十字病院の健康管理センターでは検査料 5,700 円で実施可能である。

### 【前立腺がん検診について】

採血によって前立腺がんの鋭敏な腫瘍マーカーである前立腺特異抗原（PSA）の発現量を測定し、陽性者は良性疾患の前立腺肥大症や前立腺炎と、悪性の前立腺がんのいずれであるかを確定するための 2 次検診（保険診療）を受けることになる。一般に、血液検査のみでがんの存在を 100%の確率で診断することは現状では不可能であるが、前立腺がんの場合は非常に高い確率で血液中の腫瘍マーカー（PSA）が陽性になる。そのため、市町のがん検診では唯一、血液検査ががん検診に用いられている。

### 【子宮がん検診について】

子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあり、検診の対象となっているのは子宮頸がんである。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）の感染で引き起こされることが判明しており、いわゆる加齢に伴う老化が原因のがんとは趣が異なる。よって、検診の対象年齢も他のがん種とは違い、20 歳という若年の女性から子宮がん検診の対象となっている。

問診が重要で、HPV に感染する機会の有無の確認と、子宮頸部の視診および細胞診が実施され、異常があれば 2 次検診（保険診療）で組織診断が実施される。

参考までに、この 9 月号の ORC には令和元年度版の「健康増進法に基づいた健診（検診）項目」の一覧表を添付しているので、今後の健診（検診）の受診に役立てていただければ幸いである。

この講演の後、本山公民館および須恵公民館の当時の館長（高畑氏と藤村氏）が、市民に対して、健康講座・教育講座で解説を受けたい項目を募られ、たちまち次の 8 つの項目が集まった。それらは、「体の成長と老化」、「薬と食事（サプリ）」、「脳の病気と脳ドック」、「食べること（食べてから排便まで）」、「血液について（白血病ほか）」、「循環器の疾患いろいろ」、「花粉症とその対策について」および「成人病とその対策について」の 8 項目である。

そこで、2019 年度（令和元年度）以降は、市民から提案のあったタイトルを一つずつ熟していく形で、小野田赤十字病院近郊の本山と須恵の両公民館で年 4 回ずつ、同じタイトルでの定期講座を開催することとなった。令和元年 8 月末現在、最初の 2 つのタイトルである「体の成長と老化」と「薬と食事（サプリ）」については両公民館での講演が済みであり、来月の本広報誌 10 月号以降にその講演要旨を順次掲載する予定である。

なお、赤崎公民館の中野隆明館長にも令和 2 年度から市民対象の健康増進関連の講座枠を取っていただけるよう依頼中であり、市民からの要請に基づいて、日本赤十字社のボランティア活動の一環として、健康増進に関連した内容の平易な解説に努めていきたいと考えている。その際は、過去 2 年間の内に本山および須恵公民館で既に講演した内容についても随時解説する予定である。

前回までの講演録については、ホームページをご覧ください。